

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html>

第 2 報
千葉県農林水産部
令和元年6月4日

生育が進んでいます

速やかに中干しを始めましょう

「ふさおとめ」の幼穂形成期は6月13日頃からと予測

[生育概況]

5月下旬の気温は、平年と比較してやや高い日が続いたことから、早生～中生品種の生育は旺盛です。特に「ふさこがね」は過繁茂気味のため中干しの遅れに注意しましょう。「コシヒカリ」は4月20日植えの生育がやや早く、5月1日植えは平年並みとなっています。

気象庁の発表では今後も気温が高いことが予測されており、さらに生育が進む可能性もあるため、こまめに幼穂を確認しましょう。

表 1 品種別の生育状況（5月31日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや早	並	やや多	並
ふさこがね	4月20日	早	やや長	多	やや濃
コシヒカリ	4月20日	やや早	長	やや多	やや濃
	5月1日	並	並	並	やや濃
ふさのもち	4月20日	早	長	多	やや濃
	5月10日	やや早	並	多	並

※平年比は過去10か年（2009～2018年）の平均値との比較。

ただし、ふさのもちは過去9年（2010～2018年）の平均値との比較。

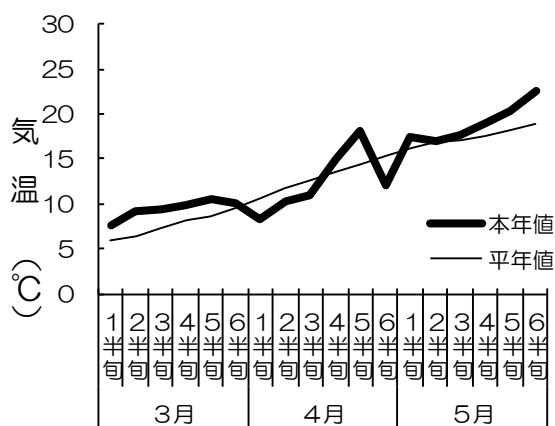


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

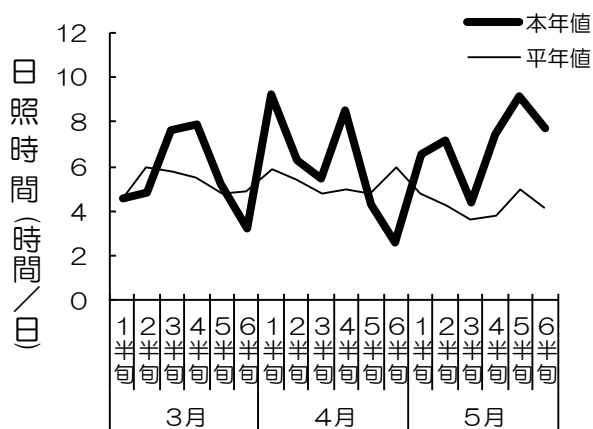


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 中干しの実施

中干しは無効分げつを抑制し過繁茂を防ぐとともに、地中深く根を張らせる効果があるため、近年頻発している登熟期の高温障害の予防としても有効です。各品種とも4月20日植えのほ場では、中干しの時期となっていますので、茎数を確認し、速やかに始めましょう。

(中干し開始目標茎数は表2を参照)。また、水はけにムラがあるほ場は溝切りの実施が効果的です。少し土壌が固まった状態で行うと溝切りしやすくなります。

表2 品種別の中干し開始目標茎数

品種	植付時期	砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日 5月1日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある。

■ 幼穂を確認し、入水と穂肥の準備

4月20日植えの「ふさおとめ」は、平年と比較して3日程度早い6月13日頃から幼穂形成期(幼穂長1mm)となる見込みです(表3)。

表3の幼穂形成期の予測日を目安に幼穂の観察を行います。幼穂が確認できたら速やかに入水するとともに、適期に穂肥を施用しましょう。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので、穂肥は幼穂形成期(出穂前25日)～出穂前18日(幼穂長が1mm～10mm)に施用しましょう。施肥量は、砂質土や壤質土では窒素と加里を10a当たり分量で各3kg、房総南部の粘質土は1～2kgが目安です。

表3 品種別の幼穂形成期の予測日

品種	植付時期	幼穂形成期予測日(月日)			
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月17日～	6月14日～	6月13日～	6月14日～
ふさこがね	4月20日	6月18日～	6月15日～	6月14日～	6月15日～

■ 飼料用米の穂肥と防除の実施(専用品種の管理のポイント)

専用品種で多収を実現するためには、収穫時まで肥効を継続させ、葉色を濃く推移させることが基本です。

穂肥は、出穂前30～20日に行いますが、5月15日頃に植付けた「アキヒカリ」のほ場は6月下旬頃から、「夢あおば」のほ場では7月上旬頃からとなります。ただし、最高分げつ期に葉色が低下すると減収するので、その場合にはさらに追肥します。施肥量の目安は、窒素を10a当たり3kgとし、コスト低減のため単肥の利用なども検討しましょう。

なお、飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。